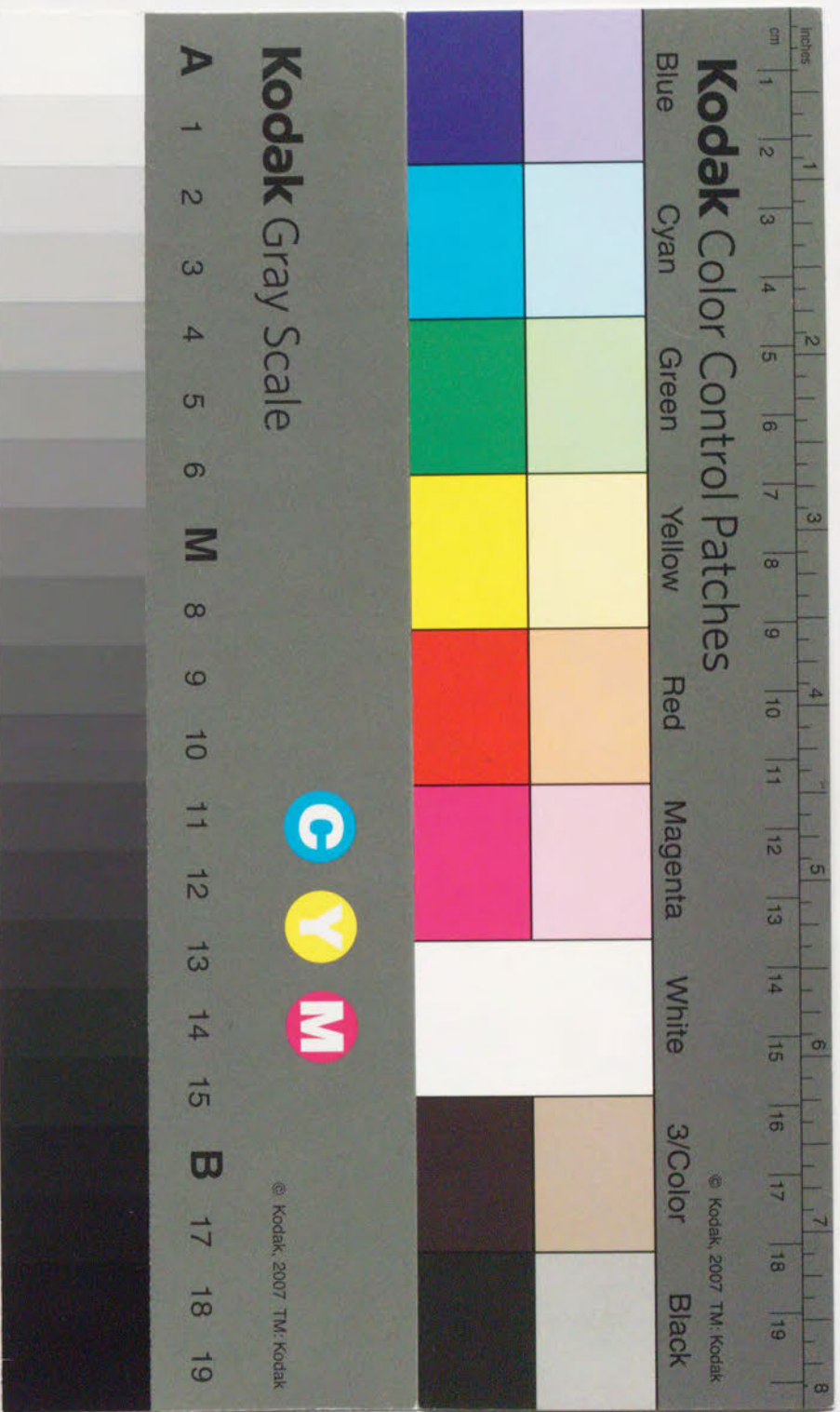




帝

夫人の一事一物より至る不あるを以て
 うるの事なり。其のゆゑに人最に要ありし
 も其のゆゑに人最に要ありし。何れも成就
 するにけり。書云、陳曰、必有忌也。乃有陳
 之忌。孔子曰、必無忌也。此大
 禍必也。所忌而後能者也。陳之忌、乃思乃中
 あらう。いかにせよ。乃成湯事有文王

事界美に仁者の心なり大王事様常向錢
も美に仁者の心なり仁者の心なり仁
敬忍なり敬に果敢なり勇なりはたて忍
とてふ二に容忍なり容に包涵なり大に
容るることなり是故忍に仁なり仁は
ゆる念然と云ふことなり仁は寛
ゆることなり仁は寛ゆることなり仁は
ゆることなり仁は寛ゆることなり仁は
ゆることなり仁は寛ゆることなり仁は
ゆることなり仁は寛ゆることなり仁は

諸點食息の間に事ある時一物に接する際
うのうとやういふ心なり仁は寛ゆる
同一に仁者柔順なり仁は寛ゆること
なり仁は寛ゆることなり仁は寛ゆる
事なり仁は寛ゆることなり仁は寛ゆる
仁の愛憎の偏なり仁は寛ゆること
なり仁は寛ゆることなり仁は寛ゆる
仁は寛ゆることなり仁は寛ゆること
なり仁は寛ゆることなり仁は寛ゆる
なり仁は寛ゆることなり仁は寛ゆる
なり仁は寛ゆることなり仁は寛ゆる
なり仁は寛ゆることなり仁は寛ゆる

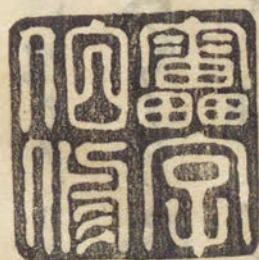
吾の印丈深きをもちて、特々聖人の如し
 のに從容中道なれとのゆえにあそそ
 實夫らとあつて、いそふ及乃ゆあき
 何ん人し、彼は持循繼中の道の中
 であつて、いかね、すゑのゆ夫と用ゐる
 あつて、あつて、又はゆ夫を關するに
 一身の事をいふ、久國天の如き
 も、こゝろ、あつて、あつて、あつて、
 時、あつて、あつて、あつて、あつて、

[illegible]

三つを以て其の
 女子たる其の
 訓詁を以て其の

聖護王府侍臣

文成二年九月
世宗識於錦里王侯



繪本德行譚總目錄

卷之一

公こう 于う 建けん 德とく 山さん 氏し
 辨べん 公こう 松しょう 枝え 某み
 張ちやう 鮑ほう 宣せん 妻めかけめ
 辨べん 慶けい 湛たん

行成卿 薛包 程侯賓 丹朱 蘭相如廉頗 舅犯



卷之二

楚莊王
 趙居先
 孫叔敖
 聶從志
 賣柴翁
 卓茂

熊千代助千代
 劉此劉贊
 周茂才妻
 葉云
 富弼
 在中將室

卷之二

袁盎
 馬翁
 垂水廣信
 楊希中
 荀巨伯
 梶原景久
 韓琦

賈郁
 吉備大臣
 良峯少將
 楊寶
 安良賣
 元石夫妻

卷之四

國栖高邦

衛致倫妻

下道君首名

曾子

房湛女

朱澤屋集

同虎壽九

冀欽

陳蕃

王駿

餘干

楊序

卷之五

魏徵

上野朝村

歐陽永叔母云

大和節婦

賈直言妻

文安農氏

徹書記

樊姬衛姬

周封新婦

宋耽

鄭義宗妻

范臣卿張元伯

姜維

郡書
 文書
 實直書
 大和書
 國書
 工部書
 書
 卷之七

書
 郡書
 文書
 實直書
 大和書
 國書
 工部書
 書

繪本徳行譚卷之一

月録

心の辨
 行成卿
 于公
 薛包
 建徳の乙氏
 程彦賓

初丁
 二丁
 之丁
 尺丁
 五丁
 七丁

八丁

十丁

十一

十二

ת

十一

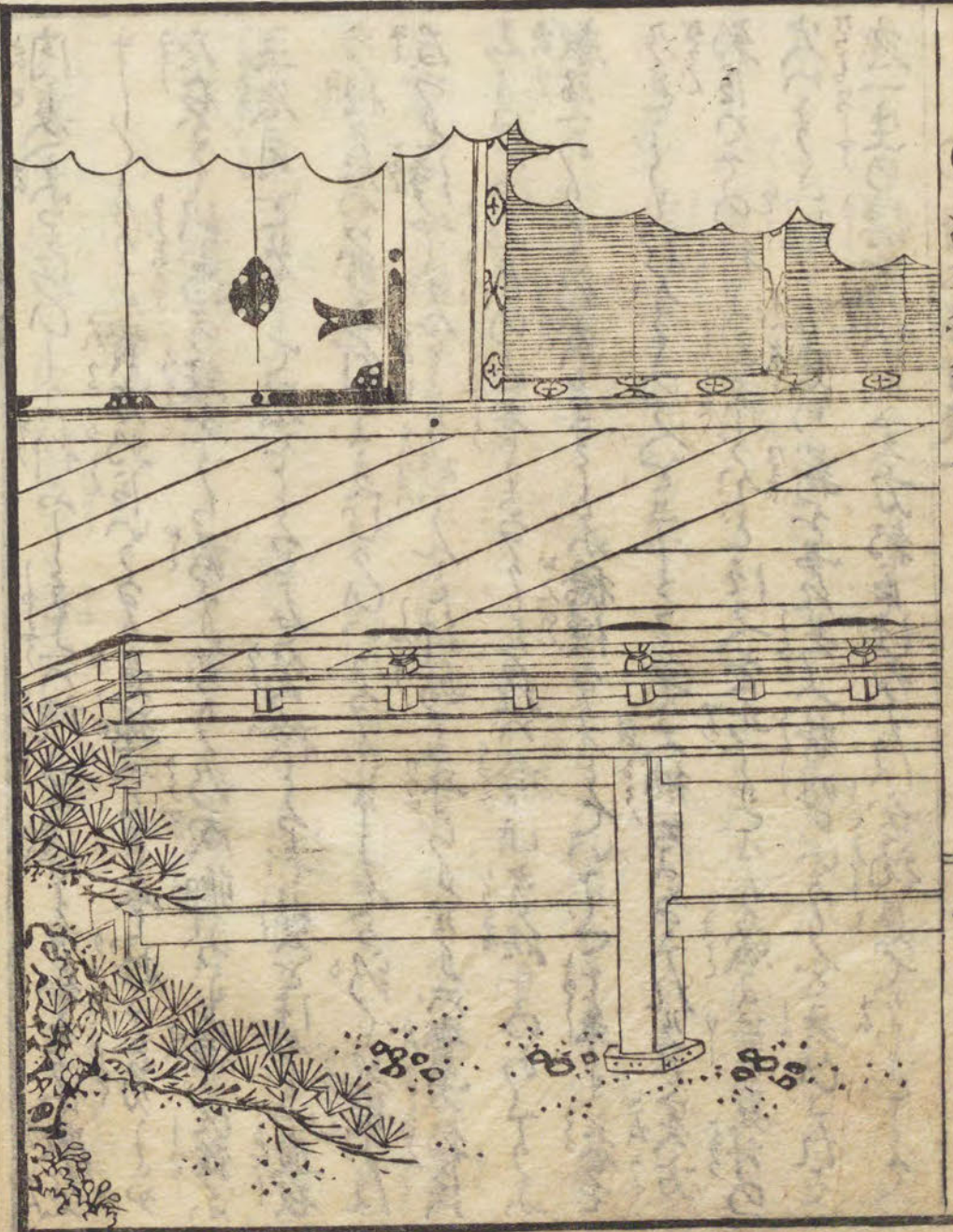
十記丁

○
公こう
の
翰はん

[illegible]



會不德行炎一



續不德行言一

東國ははるかにてしるくかゝるをみちのけしを埋む
りりわらふるをさしむるや実方お世に在る内いふに
て今のうち今度都へ歸てそのうの乃まどなりをささやと
はゆらるるを魂雀よりて禁中の看盤より形果て置を
する米と啄りしややせ入内雀といふる実方の形はの魂
魄なりと傳へしやね

○于云

後漢の于云とて人君はて寢食をてあて大なり
所松より下氏と傳へて教多の令と救りしや莫大なり
老後松牙と建しに其の門をさく作しより武同云
それ屋宇のさな過る風災必ち災是下は松は檢物と
この松災と松縁松といふるをさしむるを好むしと

と尋るは于云言てを我君はて寢食をさしむるを好むしと
施しよりさしむる故に我は松より大なる教多なるもの有て
細馬の車は乗者なり人君はの用は門とさく建たりといふり
果して孫の于定國は官出相といふるねね此于定國は性質
酒と好むを豪飲をなす乃ハ漢の松は元ふるをさしむるを
礼とて好むいふるをさしむるを好むしと

○薛包

薛包は南の人なりいふるははるかにてしるくかゝるを埋む
の心ぬりぬりさしむるをさしむるを好むしと
終母より薛包とてさしむるを好むしと
終は薛包とて進出より薛包といふるを好むしと
かげさうかゝるを好むしと

清ね根津家はゆたて父母の安んじれば孫を中とすて分た
うろこびいさうと西芳うととすこれの湯水も咽とぬ
うろこびいさうと西芳うととすこれの湯水も咽とぬ
を終ぬとみびうとみびと父母これ感ては涙に
いよう益秋はとりかく父母はくはておきり終ぬと
後きりはとりのでいといといをふらとりて
その徳くれし中とみふらとり

○建徳の心氏

万曆年中の事なり一に建徳と云ふ處に虎多く出て白
く人として怖て目をしりあれたる人里らうて
人として怖て目をしりあれたる人里らうて
おきりて田畠のべりておきりて田畠のべりて

母はくして至孝なりあるれ市にゆく年と実と
これ願くゆりうと道とせられ虎のけりいさ
のうたれ中ふかきと涙と無く虎むいふ人射と
うとりうと虎とせあものかきば我を中と
只今ゆいあひうと天令かきと
迹のうたれ中ふかきと今年五穀みのと
考ふ母と中ふかきと我を中と
孫うといふを中ふかきと母と中ふかきと
うとりうと虎とせあものかきば我を中と
ふべいのいさうと虎とせあものかきば我を中と
とりてふと虎とせあものかきば我を中と
とりてふと虎とせあものかきば我を中と



ふみひげむつととる新のえゆけりるる遠り

母考の墓よりててててての程を紙習道

程
廣
賓

床の世のと傳へて天下之に弘く程彦賓と云ふ人業

心より忠告とあつてはる志を背ぐなれ

肯綮余松枝系麻生糸とて武人の為侍ありじふ年のかよも
 たぐひゆぐらうとて志をもくくをく後どきて了れぬく
 まじかり候うるもたたりいふ所のゆさまりとてうまて肯綮さ
 りとて求んとせりあり候ふゆれては五方とありとむくくぬこの
 松枝氏のちちちて父男とくたぬちちのひとあやうくいふ所
 ひそくふととりてて今有け文と代處よりひされども
 よれひすくそくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ともゆんくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 名てけいひのちちくくくくくくくくくくくくくくくく
 あくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



けし秋とつゆめとをわたりあふさの麻生氏ある男
 くれまふさのあひをふりうひとあつとみふ国ふ
 ゆれらふさふとあふあけてやしとくしとくしとくし
 ありしれきりひとあひらけひひけしとくしとくしとくし
 うれさふさうとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 けさふさうとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 かしねと人ふさふさのひとくしとくしとくしとくし
 男外居より父ふさうとくしとくしとくしとくし
 二人ふさうとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 くれねねねねねねねねねねねねねねねねねね
 うれねねねねねねねねねねねねねねねねねね
 あつとくしとくしとくしとくしとくしとくしとくし

けし秋とつゆめとをわたりあふさの麻生氏ある男
 くれまふさのあひをふりうひとあつとみふ国ふ

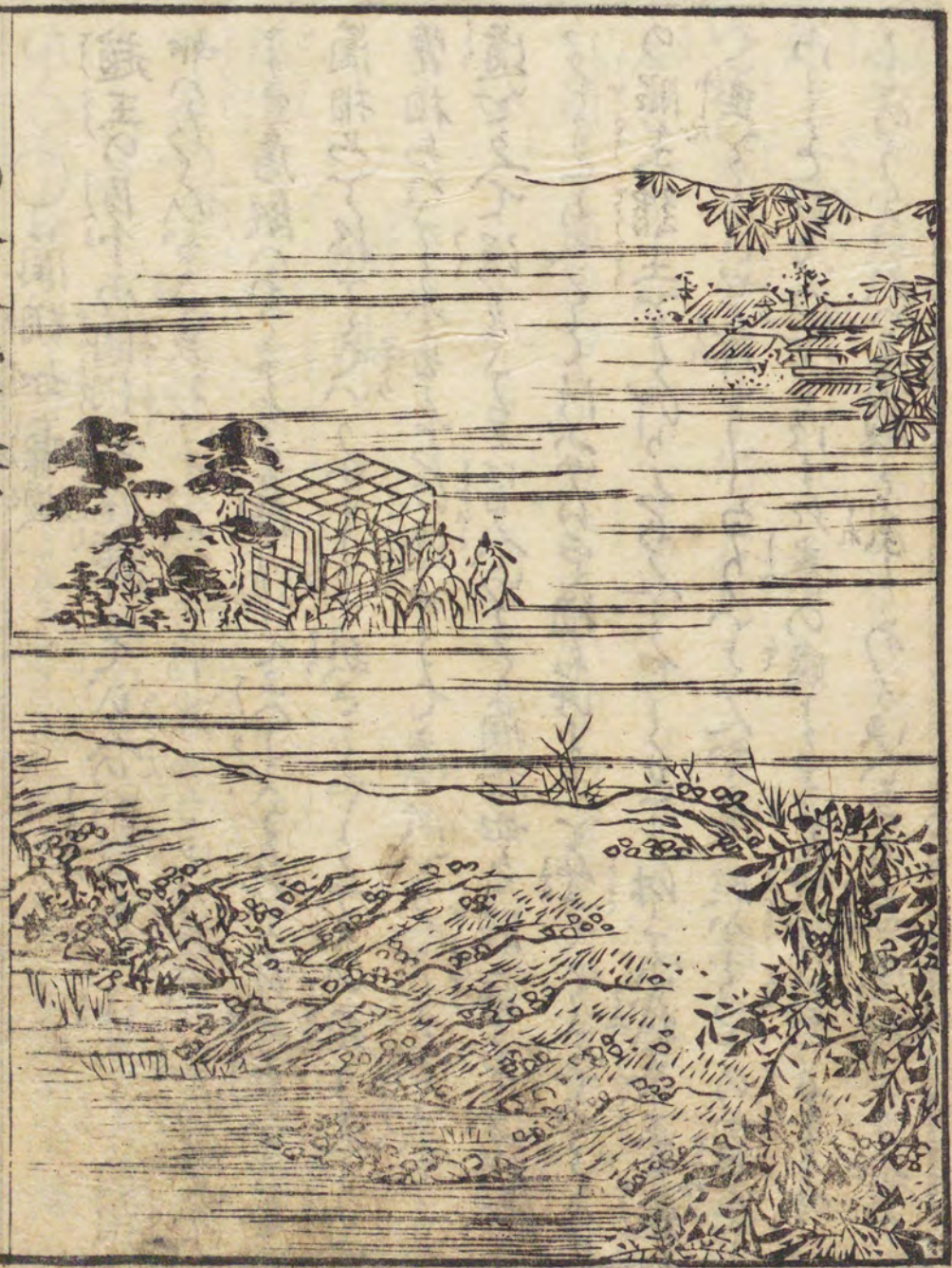
○丹朱

子とくしとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 君とくしとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 けし秋とつゆめとをわたりあふさの麻生氏ある男
 くれまふさのあひをふりうひとあつとみふ国ふ
 ゆれらふさふとあふあけてやしとくしとくしとくし
 ありしれきりひとあひらけひひけしとくしとくしとくし
 うれさふさうとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 けさふさうとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 かしねと人ふさふさのひとくしとくしとくしとくし
 男外居より父ふさうとくしとくしとくしとくし
 二人ふさうとくしとくしとくしとくしとくしとくし
 くれねねねねねねねねねねねねねねねねねね
 うれねねねねねねねねねねねねねねねねねね
 あつとくしとくしとくしとくしとくしとくしとくし

う敵かる女おまといへしと常の蛙よかる秋娘のち漣りのふ
とてわたりたるいまり唯女ふに紡績裁縫のかいをぶ正し
くぐぐかの荒衣かしくともわりかん

卷之

50



○ 蔭相如廉頗

[illegible]

まづぐり死にこれ捕者のゆゑのかつといふるを我と秦と
 戦ひて一定試みかづり死にづりて秦の國よりとぐり
 此趙の國を討ちて一竹ぞ私のしゝて國家の大事を
 忘るんやとせしむて廉頗これとほてきて大に船く思ひ
 うぐりう蔭相なりとにけり我大よあきなりゆきあきとて
 りびえりてしむるを二のかつとてあきよはくられ趙の
 國よりとぐりたり

○張湛

後漢の張皇后光武帝は一忠直の臣なり帝は漢室
中興の明帝なり是の張皇后の所政處なりとて
しむるは度々其のありをいふなり帝は漢の
いふとてそのいふがごとくはせしむるは張皇后

はれふにきて禁中へ入内して帝儀はあつて
ぬふ白馬生来とふいまも朕といふ人ともうて思く
うまひ治ひふる者としてうまひに思ひつるは賢臣の
能者といふやこれとてふるのひさう身余と省次君
の乃小忠とぬとばやうり

○舅犯

晋の文公は西河の舅犯を同族ふや西河の令は誰と任
せむ氏より伏ふやと有るに舅犯をてて云虚子
とてはるるをてて氏と云ふ人より文公は文公は
その虚子と云ふと仲ありは者からばやとの事と舅犯者
てややう君の西河の令ふは彼ををを同族ふと我
族の仇とててて仲ありは事の同族ふはるの事と表の仇は

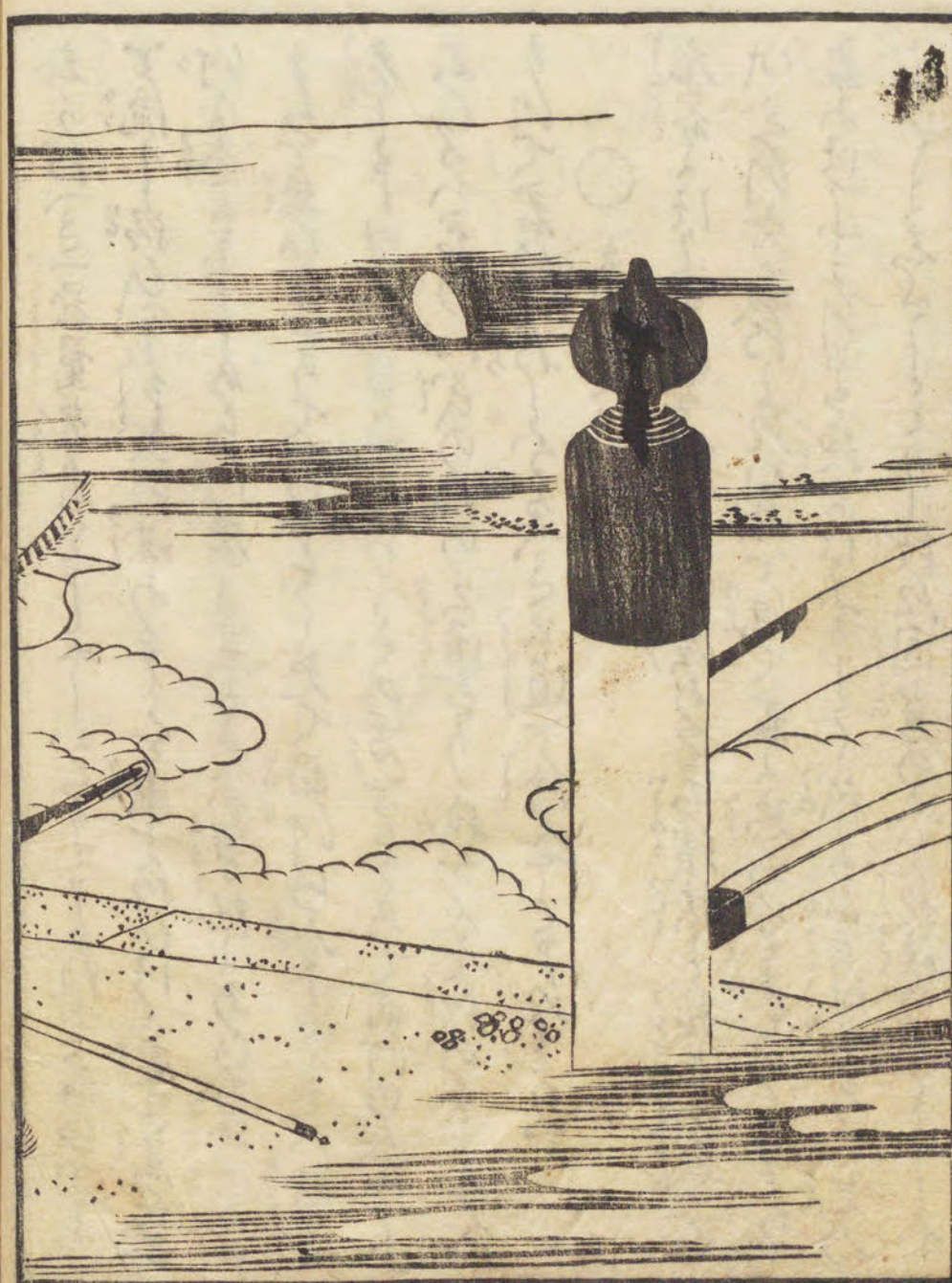
ありふて二益量有者をてててててててててててて
と流し給ひてててての流ありてと感はぬひは虚子と云ふを西
河の令とててててててててててててててててててて
すらと思ひててててててててててててててててててて
ててててててててててててててててててててててて
るひは君の仇はぬの云道なり我がんとてててててて
りてて君の仇はぬの云道なり我がんとてててててて

○義慶

元帝ははるる人へのはるるの法ありて西河はとて
けふのををててててててててててててててててて
希ふはふまのるを親とてててててててててててて
ててててててててててててててててててててて



繪本巻二終一



繪本巻二終一

誅く次郎とて下寮の番に就き事ありていふに徳川に
足のとく親しむといふことありて其の御用もよく
源廷尉に人し武藏坊を愛ひて其の御用もよく
はふり親のいふことありて其の御用もよく
すも長下の番を失ひ次郎を石橋に止せり切腹の人なり
はくことありて其の御用もよく
して足郎のふりし令しありて次郎はつるふりしと親
ふりしと親のいふことありて其の御用もよく
てんふりしと親のいふことありて其の御用もよく
作預りて其の御用もよく

繪本德川評話一尾



繪本德川評話卷之二

目録

楚莊王	初丁
熊子代駒子代	二丁
趙居先	三丁
劉批劉贊	四丁
孫叔敖	五丁
周茂才妻	六丁

二

七丁

十丁

ח

十一

十三

十

1845

れ居下と集り酒肴ぐらひひに
 の燭うえにふりば武具下を乃
 れは美人の袖とひさかり美人を
 ふりよるは維とはあひさう
 を切れたるいそぎ灯をとりて
 ほどに王をよりひきかき今宵は
 をを鉄くがめかき酒をひて
 日中いそぎの人々を冠の松と
 けりて後灯とりてとりて又り
 はりて久しきとて久しきで美人の

君の懸うづつれはいよく忠節ちうせつを尽しえり

まゝと

の庭^にふくま^りて秋^よわくま^りと石^いとひ^ろひ^て糸^{いと}と^り出^でて^し塙^{うね}と